

Ⅲ 松商学園高等学校

1. 基本方針

教育活動を通して豊かな人格の形成を図りつつ、知性・学力の向上に努め、「自主独立」の精神溢れ、将来社会に貢献し、リーダーとなる人間を育成することを目標に、下記の内容に重点を据え教育を推進する。

- ①普通科・商業科のコース制、教育内容について検証し、一層の充実を図る。
- ②大学進学等、生徒の進路実現に向けて指導を徹底する。
- ③高大接続改革に対応した細やかな指導をしながら大学入学共通テストへの準備をする。
- ④クラブ活動の一層の充実をはかり、より高い目標を実現しつつ学園の活性化を図る。
- ⑤保護者が安心して子供を任せられ、地域に信頼される学校づくりを進める。

2. 学習指導・内容の充実と進路実現

(1) 商業科

- ①地域に根ざした商業教育、技術革新に対応した情報教育をさらに充実させ、ビジネスに関する一般的知識だけでなく、会計・経済・情報などの専門的知識、技術を習得させ、諸検定での上級合格者の増加を目指し、職業人・商業人として必要な能力を育てるための体制を確立する。
- ②大学進学希望者が大半を占める現状に対応するため、より高度な資格取得を目指しつつ、一般・専門教科の学力増進にも取り組む。2つのコースの特色を生かして、情報関連および会計関連の資格取得に特化した指導を進める。
- ③松本大学・松商短大・健康科学大学等との連携を推進する。具体的には、大学との接続を検討し、高度資格の取得を前提とした5年制および7年制に向けた検討を進める。
- ④現在進行中の地域や大学と連携した商品開発プロジェクトや実践的教育を推進する。開発商品の積極的なPRと販売実習を年間通して行う。
- ⑤土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。
 - ・各種資格検定試験取得に向け、授業のみならず、放課後の補習授業・外部講師による対策講座等をより積極的に設定・実施し、生徒の力に合わせたきめ細かな指導に取り組んだ。
 - ・探究的な学びとして、地元地域の課題について実態調査し、解決へ向けた研究・発表を実施した。
 - ・地元食材などを活用した新商品開発事業を継続実施し、地元イベント・祭事等において販売実習を行うことで、開発商品と本校商業科の活動・取り組みを地域社会などの外部へPRし、またイベント全体の活性化にも貢献した。
 - ・外部講師による特別授業を継続実施した。(租税、年金教室、働き方、男女社会参画等各種講座)
 - ・商工会議所、青年会議所等の団体と連携、協力し、ボランティア活動を積極的に行った。
 - ・松本大学、松商短期大学部への進学を推進するために、授業などで連携内容等の周知を行い、興味関心を高める取り組みをした。

(2) 普通科・総合進学コース

- ①クラブ活動の実績を活かして希望の進路を実現させる生徒もいるため、効率の良い活動によ

り基礎学力を定着させる学習指導を更に工夫する。

②「総合的な学習(探求)の時間」を活かし、生徒の意欲・知性向上を図ると共に、進路決定にも活かしていく。

③英語技能検定・漢字技能検定等の資格取得に挑戦し、進路実現の幅を広げる。

- ・クラブ活動との時間的両立が困難であり、補習授業の成立は不可能であった。
- ・朝のホームルーム時間を利用した小テストは年間を通じて実施した。英語・国語・数学の3教科を軸に担任が指導する中で、着実な基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指した。今後、スタディサポートなどの外部の基礎学力テストの結果を注視していきたい。
- ・「総合的な学習の時間」に関しては、大学入試などの選抜に挑む場合に求められる能力の修得につながる取り組みを実施できた。

(3) 普通科・文理進学コース

①生徒の学力向上および生徒の学習時間確保のために、通年実施する補習授業や長期休業中の補習授業を強化する。

②大学入試における負担増加に対応するため、科目履修を類型選択により効率化し、より効果的な教育活動を展開する(A類は私立文系、B類は国公立型文系、C類は理系選択)。

③漢字能力検定・英語技能検定において、上級合格を目指し、補習を強化していく。

- ・A類から一般入試に挑戦する生徒が極めて少ない。A類の生徒はほぼ推薦入試で本校に入学している。更に一般入試に挑戦する気持ちと実力をつけさせたい。
- ・BC類では一般入試に挑戦する生徒が8割近くおり、推薦入試を利用しながらも信州大学、新潟大学、山形大学など国公立大学に5名が現役合格した。県立高校を受験しながら結果として本校に入学してきた生徒が多く、受験意識がA類の生徒よりも高い。今後の文理進学コースの中心となってもらいたい層である。

(4) 普通科・選抜進学コース

①校外模試・進学ガイダンス等を通じて受験生集団における自己の学力を的確に把握し、大学受験に対応できる学力を培う。

②3年生については秋期より特別編成授業を実施し、受験に向けて徹底した指導を実施する。

- ・選抜機能が高い大学への進学を目指す目的を共有する一方で、クラブ活動と学業との両立に悩む生徒も見受けられるコースである。生徒は厳しい環境の中でよく努力し、教員も的確にサポートした。
- ・難関である国際基督教大学に合格を出したものの、国公立大学は1名合格のみで、希望の高さと現役合格を勝ち取ることの両立の難しさを再認識する結果であった。

(5) 普通科・特別進学コース

①1・2年次に英語会話能力を育成するプログラム(OST)を導入する。

②1年次冬季に英語会話能力をさらに高めるべく、イングリッシュ・キャンプに参加する。

③ICT教育を導入し、Webテスト、動画視聴などを活用して主体的かつ効率的に学力を高める。

④オープンキャンパスツアー、大学見学会等の実施および探究的な活動を導入し、生徒の成長を促す。

⑤コースの魅力をより高めるため検証を深め、実践していく。

- ・2月のイングリッシュ・キャンプ(British Hills(福島県))の語学研修は、生徒にとって

は大きな刺激となっており、英検受験者および合格者も増えている。(1・2年生)

- ・OSTによる、外国人講師とのネット上の英会話練習に伴うネットワーク接続の不備は昨年度より解消された。内容はほぼ満足できるものであり生徒への刺激にもなっている。(1・2年生)
- ・本年度の国公立大学への合格は5名であった。英検2級に37名中29名が合格しているクラスではあったが、選抜コースでの記述と同様に希望の高さと現役合格を勝ち取ることの両立の難しさを再認識する結果であった。

3. 進路指導について

(1) 第1学年

- ①学級・コース別のPTAの開催、学校の方針を正しく伝え、保護者の理解を得る。
- ②基礎(中学まで)学力の充実を図り、初期の段階で高校生活の学習習慣を身に付けさせる。
- ③キャリアガイダンスを実施し、職業観を養いつつ進路選択を前向きに検討させる。
- ④1年次後半に進路ガイダンスを実施し、進路選択の一助とする。

(2) 第2学年

- ①各種PTA説明会を開催し、学校方針の再確認、生徒・保護者の進路意識を高める。
- ②2年次後半にガイダンス等を企画し進路を明確にして3年次への移行をスムーズにする。

(3) 第3学年

- ①進路決定の最終段階として保護者・生徒への進路ガイダンスを充実させる。
- ②就職者に対しては、公務員模試・SPIの学力対策と面接・社会マナーの講習を実施する。
- ③進路実現に向けて、最後まで粘り強く取り組ませる。
- ④推薦合格者に対しては、高校学力保障の観点からも校内での基礎学力テストを課す。
 - ・目標としていた進路確定率95%に4%届かなかった。(一昨年度93%、昨年度91%)
 - ・就職者は一昨年度と変わらず7%である。また、公務員に関しては7名が合格を決めたが、早い時期から意識を高く持ち試験準備をしている。
 - ・4年制大学への進学志向が高まる中で(本校55%:昨年より6%上昇)、安易な推薦による進学形態にならないように指導を続ける必要がある。また、高大接続改革と大学入学定員厳守の影響で難関化する大学が見られるため、これまで以上の対策が必要とされる状況であった。
 - ・国公立大学現役合格者は13名(推薦6名[セ推1名新潟大]、前期7名)であった。特別進学コースに加えて、文理進学コースC類(理系)から5名の合格者を輩出できたことは特筆に値する。本年度も継続指導の大切さを再確認した上で、教員が相互に協力して指導を深めることが重要であると考える。

4. 生徒募集について

募集定員を厳守し、適正な入学者選抜方法を検討する。

- ①公立高校と同様に5教科入試を推進する。
- ②一般入試Bを検証し、改良策を検討する。
- ③教育課程、特別進学コースの内容変更を積極的にアピールし、「あこがれ、希望を感じる松商学園の魅力」を強化し、「学びたい学校」の立場を確立し、情報発信を行う。

④入試説明会、体験入学を充実させるとともに、学校説明会の会場を松本大学とし、学園の宣伝にも努める。

- ・推薦入試におけるクラブ推薦入学者数がかなり多くなってしまったため、一般入試のボーダーラインが上がってしまった。
- ・2020年度入試では、定員420名のところ443名の入学となり、定員の5%増程度でおさえることができた。
- ・5教科入試に関して周辺中学校から理解がされているものの、商業科の学業推薦、クラブ推薦者数が増大したため、一般入試Aが難化し、受験生にとって狭き門となった。
- ・一般入試Bでは、3名の受験者がいた。中学校からの問い合わせも含め、私学で併願を確保していない生徒数もある程度いることが確認できた。
- ・広報と協力して、新聞等に広告を掲載した。内容に関して十分な打合せができなかった。
- ・入試説明会を本校、長野会場、伊那会場の3会場で行った。年々参加校が増えてきてはいるが、中学校の文化祭シーズンとも重なり他地区の参加が厳しい状況もある。
- ・学校説明会については、松本大学にて他のイベントと重なり駐車場の整備に苦慮した。参加者数に関しては、家族連れで参加するなど概ね好評であったように思われる。

5. 広報活動について

(1) 広報活動全般に関して

本校の学習活動や様々な取り組みを広く周知し、今以上に存在感を発揮できる学校として認知されるよう活動した。新聞広告、ホームページ、ラジオなどの新たなツールを活用して媒体強化や発信も進めて行った。

(2) 情報発信に関して

本校の歴史・伝統・多様性等を活かし、校友はもちろんのこと、地域への情報発信を迅速に行い、本校への関心を更に高め、学校支援の基盤としての力(地域に愛される「松商学園」)をより一層高めるよう努めた。

- ・ホームページの全面リニューアル
- ・体験入学用に作成した動画をホームページにリンク
- ・Googleなどの協力によるインターネット検索のSEO対策(上位表示)
- ・Google_MAP上の校内ストリートビューをビルトイン
- ・Facebookなどのソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の利用を促進
- ・広報用看板の制作(駐輪場壁面を利用)

6. 生徒指導について

(1) 生徒指導

すべての生徒がルールに基づく学校生活を送り、高校生らしい言動や清楚な姿、進路実現のための生活指導を生徒指導上の基本理念とし、一貫性のある継続した指導を日々実践していく。

- ①HR・授業における挨拶と身だしなみの指導、開始時・終了時の挨拶の徹底、開始時の服装指導。
- ②交通安全教育の充実・徹底を図る。特に自転車事故防止に重点を置き、交通規則・交通マナーの指導をする。
- ③登校指導、制服の正しい着用、自転車マナーの徹底。

- ④校内巡視、盗難防止等の徹底。駐輪場・校内必要箇所への防犯カメラ設置について検討する。
- ⑤携帯電話・スマートフォン・SNSの正しい使い方等の指導。
 - ・「生活指導ガイドライン(問題行動生徒に対する反省指導と懲戒処分について)」を作成し、生徒・保護者への周知を徹底し、来年度から運用することとした。
 - ・「制服着こなしセミナー」を実施するなど身だしなみ指導を特に強化した。
 - ・「スマホ・SNSの安全な利用の仕方」の講習会を1学年対象に実施した。
 - ・自転車事故を防止するため、スクアードストレートを実施するなど、様々な角度から指導した。
 - ・20時30分完全下校の徹底をした。

(2) 生徒会活動

学園における生徒の社会生活訓練の効果を増進し、学校の教育活動の一環として教育理想の達成に協力する生徒会づくりを行う。

①生徒会主催行事の工夫

- ・応援練習、松商祭、クラスマッチ、生徒総会を中心に各行事の工夫と改善に努める。
- ・朝のあいさつ運動や選手壮行会など生徒が前面に出て活躍できる場面を工夫する。

②甲子園等の応援について、さらに研究していく。

- ・生徒会活動の自主性を重んじ、生徒主導の活動を促した。
- ・応援団OB会等と提携して、応援リーダーへの指導を計画したが、新型コロナウイルスのため、実施できなかった。
- ・本校の台風19号被害者支援のために、全校から募金活動を行った。
- ・生徒会則が現状に合わないので、来年度改定に向けて見直しを始めた。

7. クラブ活動について

- ①運動部は、団体・個人競技とも更に高い目標を目指し、活躍できる環境づくりを推進する。
- ②学芸部は、個性豊かなテーマ、研究・発表・パフォーマンス、旺盛な行動力と集中力をもって活動する環境づくりを推進する。
- ③更なる加入率向上を目指し、新入生に対するクラブ紹介の充実、未加入者への呼掛けを行う。

《世界大会・全国大会入賞者(3位まで)》(2019年度 顕著な成績)

- ・(水泳) 第5回世界ろう者水泳選手権大会 優勝他 中東郁葉
- ・(柔道部) 世界カデ選手権大会 優勝他 矢澤愛理
ポーランドカデ大会 3位 矢澤愛理
- ・(トワリングバトン部) 全国高等学校ダンスドリル選手権大会ミリタリー部門 準優勝
- ・(男子バレーボール部) 国民体育大会 3位 常田将志
- ・(テニス部) 全国私立高等学校テニス選手権大会 個人戦シングルス 3位 石垣秀悟
全国私立高等学校テニス選手権大会 男子団体戦 優勝
全国私立高等学校テニス選手権大会 女子団体戦 3位

8. 保健衛生・健康管理の推進

生徒・職員が最大限の力を発揮するために心身の健康維持とそのための教育と予防に努める。

(1) 生徒・職員の心身の健康維持

- ①生徒支援体制の強化・充実のため、関係者がチームとして取り組み、早期発見・早期対応・早期支援に努める。
- ②健康診断でチェックされた生徒には、早めに受診通知書を出し、その後の治療結果まで確認を取ることにし、必要であれば保護者と連絡を取り、関係職員の中で情報を共有し対応する。(アレルギー対応等含む)
- ③健康増進について活かせる活動をするためにも、研究や講習会を増やしたい。
- ④職員の知識向上のための学ぶ機会を設ける。

(2) 生徒への教育(健康教育、感染症予防の徹底、性教育、DV防止、薬物乱用防止)

(3) 緊急体制づくり(安全な環境づくり、危機管理マニュアルの徹底、災害時マニュアル保健室用徹底)

- ①全職員による心肺蘇生実習の実施。
- ②AEDの設置場所の増設。
- ③インフルエンザ・ノロウイルス等感染症に対し、生徒、保護者、職員に保健だよりを配布し、予防指導を行う。
- ④殺菌用消毒石けんとアルコール消毒、加湿器の設置を行う。
- ⑤感染症が出た場合の速やかな対応体制により、感染拡大を防ぐ。
生徒・職員に対して健康診断での結果を通して、再受診、治療等の連絡を徹底することができた。
- ⑥2019年4月1日から全館禁煙とし、喫煙室を休憩室へ変更ならびに休養室を大幅に改修した。

9. PTA活動の推進

保護者と学校との連携を密にし、学校教育の徹底と教育効果の向上を図ると共に会員相互の教養を高め、交流を深める。

- ①教育活動(学習活動、クラブ活動)に対して、効果的な財政的支援を検討し推進する。
- ②私学助成活動を積極的に推進し、陳情活動の実施と署名活動の協力を行う。中信地区私学助成推進協議会の事務局に協力し、陳情活動を行う。春と秋に教職員が行っている署名活動に協力する。
- ③各種研修会・地区会を企画運営することにより、保護者との交流や意見交換の機会を作り、会員のPTA活動に対し参加しやすい環境を整える。
 - ・①については、多くの生徒の活動に支援が行き渡るよう新規程に基づき効果的支給を実施した。
 - ・②については、多くの市町村に私学の魅力をアピールしつつ教育経費への補助を訴えた
 - ・③については、PTAセミナーとして国際理解をテーマに内川小百合氏(丸の内ビジネス専門学校校長)の講演会を企画した。さらに、松本市(北西)・山形村・朝日村地区の多くの保護者と地域を取り巻く問題について意見を交換した。

10. 環境整備の推進

(1) 環境関係について

地道な日々の清掃活動が主であるため、厚生委員会による巡視を徹底していく。

(2) 施設関係について

必要備品であるロッカーや下足箱が適正に配置されるよう割り振る。

(3) 防災・防火関係について

年 2 回義務付けられている防災訓練のうち、1 回は全クラスに対する防災ビデオの上映、もう 1 回は総合防災訓練を企画する。特に総合防災訓練では、救護所の設置、トリアージ、けが人搬出、消火器訓練、放水訓練、非常用トイレの設置等多岐に渡るものを企画していきたい

- ①環境美化については、全クラス、および各クラブに清掃分担区域を割り当て、毎日の清掃と月 1 回の特別清掃を励行した。また、厚生委員会による巡視で清掃状況を確認し、清掃が行き届いていない箇所を指摘し、指導した。文化祭では厚生委員会が中心となって生徒会主体で環境整備を行った。自主的に校舎内外の美化に協力するクラブも見られた。
- ②教室環境を整えるために各教室に乾湿度計を設置し、熱中症予防、乾燥予防を意識付けた。
- ③ロッカーや下足箱を適正に割り振りした。
- ④最寄消防署の協力指導を得て、9 月に総合防災訓練を実施した。

11. 国際交流活動の推進

(1) 活動報告

- ・釜慶高等学校ホームステイのため来校

日程：2019 年 10 月 24 日～10 月 27 日

人数：釜慶高校教員・学校関係者(2 名)および生徒(10 名)の計 12 名

内容：授業見学、部活動見学、市内観光 他

- ・釜慶高等学校との協定書の見直し

過年度に始まった釜慶高校との交流も約 10 年となるため、2019 年度に管理職（校長及び教頭）が訪韓し、内容見直しを協議し新たな協定書を締結した。

- ・交換留学

ロータリークラブの支援で本校生徒が短期留学する代わりにカナダから交換留学生を受入れ（2019 年 7 月 1 日～8 月 26 日まで 2 年 11 組に在籍）し、様々な授業において本校生徒と交流した。

(2) 今後の国際交流活動について

- ・釜慶高等学校との交流継続

釜慶高等学校より本校に訪問団・野球部・ホームステイ生徒が訪問（10 月末）の予定。

- ・英語圏の高校との連携

今後のグローバル人材の育成の一環として、英語圏の高校との新たな提携を模索するため、研究を重ねる。

12. 特別支援教育・スクールカウンセリングについて

特別な教育的ニーズのある生徒・保護者への支援を迅速かつ丁寧に行っていくことを目標とし、特に新入生については、中高連絡会での情報共有ならびに、高 1 ギャップ等も含めた早期対応に

努める。また、職員研修を実施し、特別支援教育・不適応生徒についての理解を深める。

(1) 特別支援教育

- ①特別支援教育コーディネーターを設け、各関係（学年・担任・クラブ顧問・保護者・医療機関等々）の連携・情報共有のもと、心の教育相談体制の強化・充実を積極的に推進していく。一人ひとりの生徒の実態を把握したうえで教育支援の充実、必要があれば合理的配慮の提供を図る。
- ②中高連絡会での情報と担任による入学後早い時期の生活観察等から不適応生徒の早期認識をし、不適応生と保護者への対応を迅速かつ丁寧に行う。
- ③特別支援教育について、職員研修の機会を増やし、支援が必要な生徒についての指導・支援体制を強化していく。特別支援が必要な生徒については、教科担当者による連絡会を開催し情報を共有し、個々のケースに応じ支援シートを作成し支援していく。保護者にも面談等を行い、教育内容について理解・了承を得る。
- ④DV について情報を得た場合は速やかに児童相談所に連絡をし、連携しながら対応する。
 - ・特別支援コーディネーターを中心に支援を必要とする生徒への対応ができた。
 - ・学習障害の疑いのある生徒に対して、特性に合わせた課題などで配慮することができた。
 - ・自殺の現状及び対策に関する職員向け研修を実施した。

(2) スクールカウンセリング

- ①学校生活の中で生じる生徒一人ひとりの悩みや相談内容を把握し、スクールカウンセラーを中心にカウンセリングを行う。必要があれば、医療・福祉・行政機関との連携も図る。
- ②生徒本人だけでなく保護者へのカウンセリングも行い、相互的に心のケアや支援をする。
 - ・合理的配慮を必要とする生徒への支援ができた。
 - ・観点別評価を導入し、学習障がいのある生徒に対して適切な評価ができた。
 - ・発達障がいに関する職員向け研修および新1年担任向けの研修を実施した。
 - ・特別支援教育士スーパーヴァイザーである両川晃子先生に毎月来校していただき、個々に相談にのってもらするなどし、生徒一人ひとりの状態や対応について理解を深めることができた。
 - ・クラス内での対人トラブルや家族内トラブル等、定期的に面談を必要とする生徒も多く、カウンセリングを通じて前向きに学校生活を送っている。
- ③その他の活動として、2018年度から「いじめ・悩みについてのアンケート」を実施。（いじめ防止対策委員会）2019年は2回実施し、必要に応じて本人からの聞き取り等を含め迅速な対応に心掛けた。

13. 情報管理について

近年の文部科学省が推進する ICT 教育を背景とし、校内の情報環境の充実を図ることを目標として様々な事業を行った。今までの「知識伝授型授業（黒板へ板書する形式）」から、「能動的授業（生徒の主体的な学び）」への教育環境の変遷になることを前提とした ICT 機器導入（電子黒板、ポータブル端末等）整備がメインになることが近々の課題である。今後は、この ICT 機器導入をするためのインフラ整備（ネットワーク環境構築他）や、他部署と協力しながら電子シラバス整備、保護者向けポータルサイトの構築化を図ることが重要な課題であると考え、全部署に亘る計画的な導入を検討する必要がある。2019年度末には、電子黒板導入に関する検討

が、ICT 推進委員会により進められ、今後の ICT 教育についての検討がなされた。本校のインフラも含め、2年後に迫った新教育課程実施に向けた検討も進めていく必要がある。

(1) ハード環境について

パソコン教室ならびに教職員が使用している PC 等は、経年劣化で故障となる端末が多く存在し、その修理やメンテナンスに費やす時間や経費も増加傾向にある。従来のようなデスクトップ PC への交換ではなく、より安価で情報セキュリティも考慮し、クラウドを利用した新たな考えを提案していきたい。2019 年度は、視聴覚棟 2F ワークプロ教室の PC のリプレースを実施した。

サーバ環境のホスティング化は現時点では実現していないが、今後に向けて検討したい。

(2) ソフト環境について

端末で使用している OS (Windows7) のサポート期限が 2020 年 1 月で終了となったが、未だ多くの端末が更新されていない状況である。2020 年度には順次更新を促したい。

(3) ネットワーク環境について

ICT 機器導入へのインフラ整備（基幹 LAN 環境の構築）が 2019 年度末に行われ、基幹ネットワーク環境を変更することができた。一部 Wi-Fi 環境が構築されているものの、特別教室、普通教室への構築に向けて段階的に整備していきたい。2020 年度は、各教室・職員室・メディアホール等への Wi-Fi 環境導入を検討している。

(4) 学事システムについて

今後は、文部科学省が大学入試改革の一環として提唱している「Japan e-Portfolio」の構築に向けて検討（追加）が必要であるものの、外部検定試験（英語検定等）の取り扱いや大学入学試験の新テスト方式の導入については、不確定要素が多い状況となっているため、この状況を見据えて進める必要がある。今後は、進路指導部と協議をしながら、学事システム「メソフィア」とベネッセ「classi」との共存や、ICT による授業支援について研究が必要である。

(5) 保護者向けポータルサイトについて

ペーパーレス化、情報セキュリティの観点から、まずは、生徒を通して配布ならびに郵送していた保護者宛通知等をネット環境で配信することを検討したが、現行のシステムでは対応は困難である。2020 年度は、不測の事態（休校措置等）に伴う授業保障（オンライン授業）の観点からも、ICT を利用した保護者・生徒とのオンライン支援システムを整備する必要がある。2020 年度からは、「Google for education」を利用した教育支援システムの導入を検討したい。

1 4. 図書視聴覚教育について

本校における図書館教育の発展および図書館施設の整備拡充を通して、生徒の学力向上や生涯にわたる学習力の育成を支援するとともに、教職員の研究、教育活動等への資料、情報およびその場を提供する。あわせて視聴覚設備の充足とその積極的利用を図る。

(1) 図書館教育

- ・学校図書館の環境整備及び利用促進の啓蒙活動。
- ・図書委員会の生徒会活動（図書当番、文化祭展示等）の指導。
- ・学園内の図書館（松本大学図書館、松商学園高校図書館、秀峰中等教育学校図書館）相互利用の促進。
- ・松塩地区高等学校図書委員会生徒による POP 講習会及び生徒交流会の開催。（本校にて夏休

み中に実施計画)

(2) 視聴覚教育

- ・視聴覚室及びメディアホール等の授業利用等への援助協力。視聴覚教材の補充。
- ・視聴覚棟 1F 視聴覚室の AV 器材リニューアル実施。
- ・2019 年度芸術教室を実施。

日程：2019 年 10 月 11 日（金）

内容：古典芸能鑑賞「独楽・津軽三味線スーパーコラボレーション」

芸術鑑賞は、古典芸能ということもあり生徒の反応など不安であったが、予想以上に盛り上がり良い芸術鑑賞となった。隔年の取組みのため 2021 年度に向けて準備を進めていく。

15. 学校施設・環境整備等について

「歴史栄光室運営委員会」で、歴史的資料をさらに収集し整理・管理に努め、企画展も含め充実を図ることを目的とし運営する。

例年、見学については、年間通して、新入生対象・松商祭・体験入学・卒業生の同窓会開催等の際に、一般公開（案内）を行っているが、2019 年度から歴史編纂室専属の職員が不在のため、歴史栄光室他、校内展示品についての詳細説明ができていない。また、2018 年度までは「歴史栄光室報」を発行していたものの、専属職員の不在により、2019 年度は歴史栄光室報の発行ができなかった等の課題が残る。

今後は、創立 130 周年に向け、歴史編纂室専属職員（研究員他）の手当が必要である。

《2019 年度寄贈一覧》

絵画贈呈

日 程：2019 年 10 月 3 日（木）（松商学園高等学校 法人役員室にて）

寄贈者：深澤甚至 氏

絵 画：奥村光正 画伯作「わさびの花」、「にんにくとパイナップル」、「ばら」 計 3 点

16. 学校施設・環境整備等について

老朽化に伴う改修箇所の調査をし、工事規模ならびに優先順位を検討し、改修工事の計画と実施を行うことを目標としている。

2019 年度は、環境整備として、柔剣道場、グラウンド、街灯の照明器具交換（水銀灯から LED 化）を実施した。また、勤怠管理システムを導入し、今までの出勤簿への押印から身分証（IC カード）による勤怠管理認証へ変更（2019 年 10 月～）することができ、職員の就業時間を把握することが可能となった。今後は、働き方改革への対応として、月 45 時間以上勤務している職員への指導や業務内容については是正等の検討が必要である。

次年度以降については、引き続き、職員室電子錠変更、PCB 廃棄処理、普通教室棟以外の照明機器（蛍光灯）、および体育施設（テニスコート）等の水銀灯から LED 化への検討や、全体的に建物の経年劣化が進んでいるため改修等を含め、マスタープランの作成が必要と考える。

17. キャリアサポートセンターについて

2017 年度までのキャリアサポートは社会環境の変遷により、就職難であった時代背景に鑑み、

本校卒業生への就職支援ならびに地元企業をサポートすることを目的として、県内の最終学歴である高等学校（進学者の7割余りが県外への進学となるため）において実施してきた。サポート内容としては、就職活動解禁前に直前セミナー、解禁後には合同企業説明会や、長野県内に事業所を設置している企業約1,800社へ求人依頼をし、企業・求人情報の収集に努めてきた経緯となるが、就活直前セミナー等への参加者は案内を送付した約1割程度であった。

2018年度から、近年の少子高齢化の人口構造を背景とし、現在の就職環境は、超売り手市場となっている状況であり、過去のような就職難になることはしばらく考えづらいと予想している。しかし、地方創生の一翼を担うことを目的とし、若者がUターンし、地方経済が疲弊しないよう地元就職をサポートすることは必然であると考えているため、2019年度も、就職活動該当学年（大学生3年生、短大・専門学校生1年）を対象として、今までのセミナー等の形式から、情報提供する形式へ変更し、県内を中心とした合同企業説明会情報、長野県内の企業情報、就活のポイントガイドの3点を12月下旬に郵送した。

18. 特別奨学生、学費等について

(1) 特別奨学生について

2019年度は、今まで特別奨学生45名に奨学費を支給していたが、近年の少子化に鑑み、2020年度生徒募集から10名減員の35名として人数の見直しをするとともに、名称を特別奨学生から特待生へと変更（規程改正）した。2020年度からの奨学費支出抑制が見込まれる。

(2) 学費等について

過年度までは、毎月の学納金は授業料25,000円+維持費10,000円の計35,000円を徴収していたが、このうち維持費については、実質的には授業料と同様のものとなっていると判断したため、維持費を授業料に含め月々35,000円（授業料年額420,000円）とし、費目変更（規程改正）した。（2020年度から全学年対応）

《2019年度 DATA》松商学園高等学校

1. 生徒在籍状況 (2019年5月1日現在)

学科 学年	商業科			普通科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年生	32	45	77	195	180	375	227	225	452
2年生	25	42	67	197	173	370	222	215	437
3年生	22	51	73	189	196	385	211	247	458
合計	79	138	217	581	549	1,130	660	687	1,347

(男女比 男子49% : 女子51%)

2. 職員構成 (2019年5月1日現在)

【教育職員】

	2019	2018	2017
校長	1	1	1
教頭	2	2	2
教諭	65	71	73
養護教諭	2	2	2
常勤講師	3	3	1
専任講師	1	2	3
非常勤講師	33	32	35
嘱託	2	1	-
A L T	1	1	1
クラブ指導員	14	14	8
合計	124	129	126

【事務職員】

	2019	2018	2017
事務長	1	1	1
課長	2	2	2
課長補佐	1	1	1
係長	1	-	-
主任	2	2	2
主事	4	4	4
事務嘱託	2	2	2
校用技師	3	3	3
施設管理員	4	4	3
学校医	8	8	8
薬剤師	1	1	1
合計	29	28	27

3. 生徒進路状況 (2020年3月末日)

学科	進学者	就職者	その他 (浪人・家居他)	卒業生数
商業科	62	8	2	72
普通科	319	26	38	383
計	381	34	40	455

進学者内訳

学科	区分	四年制大学	短期大学	専修学校	計
商業科		29	15	18	62
普通科		220	36	63	319
計		249	51	81	381